

まず、日本でのマラリア発症数は年間 100 件弱で、すべて国外で感染したケース(輸入マラリア)です。国内で二次感染が起こるとすれば、この 100 名ほどの感染者を刺したマラリア媒介蚊が、マラリア原虫が体内で活性化しているうちに次の人を刺すことで起こります。病原体が蚊の体内で活性化するまでには 10 日ほどかかりますが、一方で蚊の寿命は 1~2 週間ほど。蚊がマラリアを感染させる能力がある状態は、長くても 4 日ほどしか続かないことになります。輸入マラリアから国内感染の広がりに発展する可能性は、現在の輸入マラリアの件数が少ないことを考慮すると、かなり低いと言えるでしょう。

また、日本では住居や周辺環境が整っているために、蚊が家に入り込むことも少なく、家の周辺の水たまりなどが蚊の発生場所になるという状況も多くはありません。人々の栄養状態、医療へのアクセスも良く、万一マラリアに感染したとしても、地域的な流行にまでは発展しない可能性が高いと考えられます。

こう考えると、温暖化イコール日本でのマラリア流行、とはならないよう。しかし、将来温暖化によってマラリアの流行地域が拡大すると、日本人が海外でマラリアに感染するケースは増える可能性があります。そう考えると、現在の発展途上国を中心としたマラリアの蔓延を解消することは、未来の日本での感染拡大を防ぐことにもなる、と言えそうです。

(参考 : http://www.cger.nies.go.jp/ja/library/qa/22/22-2/qa_22-2-j.html)

★ ☆ ・ ・ ・ ・ ・ ————— ・ ・ ・ ・ ・ ————— ・ ・ ・ ・ ・ ★ ☆

一般財団法人 mundef <http://www.mundef.net>

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 1-14-13

MAIL: info@mundef.net

HP: <http://www.mundef.net>

Love is Free Campaign 特設サイト: <http://loveisfree.mundef.net>

ご意見ご感想、本メールマガジンの登録・解除はこちらから

info@mundef.net

★ ☆ ・ ・ ・ ・ ・ ————— ・ ・ ・ ・ ・ ————— ・ ・ ・ ・ ・ ★ ☆

掲載記事の無断転載はお断りします。

Copyright(C) General Incorporated Foundation mudef
